



今年は367人が入職

医療人として スタートを切る

○ 4月2日(月)、亀田グループの学校法人鉄蕉館 亀田医療技術専門学校2階ホールにて、新入職員367人を迎えて2018年度入職式を執り行いました。

式典では、新入職員に向けて亀田隆明理事長より、「今はチーム医療の時代。それぞれの職種がプロフェッショナルとして個の力を磨くとともに、互いをリスペクトしながらチームの一員としてパフォーマンス向上をめざしてほしい。そのためにも、“Always Say YES!!”の精神で、まずは相手の話に耳を傾け受け入れるところからスタートし、よく考えて決めたら失敗を恐れず“Do and Think”で実行にうつしてみることが大切。亀田グループの一員となった皆さんには、チャレンジ精神をもって高い目線でこれからの医療を担ってほしい」と訓示を述べました。

○ 本年度の新入職員の内訳は以下のとおりです。

- ・診療部 100人
- ・看護部 160人
- ・医療技術系職員 78人
- ・事務系職員 29人

歯科センター

ゴールデンウィーク診療情報

ゴールデンウィーク中の5月3日(木)・4日(金)・5日(土)の3日間、救命救急センター内に歯科医師が常駐いたします。

夜間診療につきましても、これまでどおり日曜日を除く、毎日午後6時から翌朝9時まで、救命救急センター内に歯科医師が常駐いたします。

急な歯痛や腫れなど口腔内トラブルでお困りの際は、まず電話でお問い合わせください。

問い合わせ先：04-7092-2211(代)

女性特有の不快感でお困りの方へ 「モナリザ外来」はじめました

デリケートゾーン(外陰部)の強いかゆみや痛みを伴う「硬化性萎縮性苔癬こうかせいしゆくせいたいせん」でお悩みの方に朗報です。婦人科外来では、これまでのかゆみ止めの軟膏やホルモン療法に加え、新たにレーザー療法(自費診療)を行う「モナリザ外来」(第1・3土曜日/午後、亀田省吾医師)をはじめました。

硬化性萎縮性苔癬は加齢とともに中高年の女性に多い疾患で、放置していると疾患部が大きく広がり、ただれや水疱などを生じたり、排尿障害を起こすことがあります。また難治性のため、なかなか良くなるならない症状に悩んでおられる方がいます。

新たに導入したレーザー療法は、外陰部に炭酸ガスレーザーを照射することで線維芽細胞を活性化させ、症状の改善をめざすものです。治療時間は5~10分程度。照射前に麻酔クリームを塗るため、痛みはチクチクする程度です。治療は1ヶ月おきに2、3回程度の照射を行い、費用は外陰部のみ照射の場合で1回16,200円(税込)です。治療を希望される方は、まずは婦人科外来を受診いただき、担当医にご相談ください。

便失禁に対する無料電話相談

便失禁でお悩みの方に、専門医や皮膚・排泄ケア認定看護師による無料電話相談を下記のとおり実施いたします。どうぞこの機会にご相談ください。

■日時:4月18日(水) 午後2時~4時

5月9日(水)、23日(水) 午後2時~4時

■電話番号:04-7099-1206(直通)



青山フラワーマーケット 母の日ギフト 予約受付中

日頃の感謝の気持ちを込めて、「母の日」にお母さまへお花をプレゼントしてみたいはかがですか? 亀田クリニック1階の青山フラワーマーケットでは、アレンジメントや花鉢など母の日アイテムのご予約を承っております。地方発送も可能です。詳しくはスタッフまでお訪ねください。



ちょっとためになる
こつしょうしょう ついたいこっせつ
骨粗鬆症と椎体骨折の話
脊椎脊髄外科
久保田基夫

第3話 椎体骨折の診断と治療

椎体骨折の画像診断

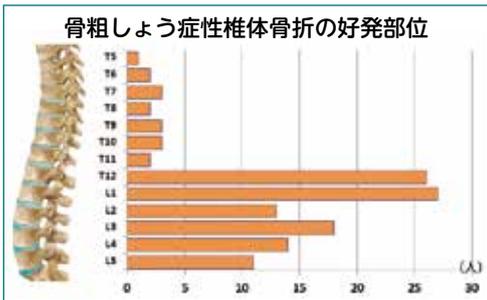
急性腰痛で来院された患者さまのレントゲン、MRI、CTスキャンです。診断は椎体骨折ですが、どれが新しい骨折でしょうか？

※の骨(第12胸椎)と答えた方、残念ながら不正解です。L1(第1腰椎)が新しい骨折、今回の腰痛の原因です。MRIで椎体が白くなっている(高信号)のが証拠です。ところがL1はレントゲンでもCTでもつぶれているようには見えませんね。急性期骨折はレントゲンでは分からないことがあります。そんな時は是非、MRIを撮影してもらって下さい。



椎体骨折の好発部位

「背骨」は1本の骨ではなく、「椎骨」と呼ばれるブロックの形をした骨が積み重なってできています。そして頭の方から順番に、「頸椎」、「胸椎」、「腰椎」、そして一番下の大きな骨を「仙骨」と呼んでいます。さて次の問題です。どの骨が一番折れやすいでしょうか？ 下のグラフは私たちが治療した患者さまの骨折部位を示しています。下部胸椎から腰椎の骨折が圧倒的に多いことが分かります。



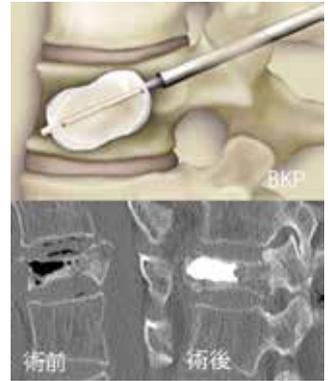
椎体骨折の保存治療

発症急性期には保存治療が有効です。治療の原則は「安静と疼痛コントロール」です。椎体骨折と診断されたら無理を

せず、できるだけ安静を保つように心がけて下さい。コルセットは必須です。市販のものではなく、自分の体に合わせた医療用のコルセットを作成することをお勧めします。骨折部位により使用するコルセットが異なりますので、専門の先生に相談されると良いでしょう。

経皮的椎体形成術(セメント治療)

保存治療によっても腰痛が改善しない場合や、骨折が治らず偽関節となってしまう場合などは、骨折椎体の中に骨セメントを注入する手術(Balloon Kyphoplasty, BKPと略します)があります。1時間ほどで終了する比較的簡単な手術ですが、患者さまの満足度は80%以上です。かつては保険が認められていなかったため自費診療で手術を受けていただいていたことが、BKPのトレーニングを受けた施設に限り保険適応が認められるようになりました。当院では2011年よりこの治療を行っています。



遅発性神経麻痺

椎体骨折により骨変形が進行し、神経を圧迫するようになると、下肢のしびれや歩行障害を来すようになります。これを「遅発性神経麻痺」と呼んでいます。固定術などの治療を行っても、対麻痺や排尿障害などの神経症状を残す可能性が高く、介護なしで生活することが難しくなります。

大切な問題ですので、第9話でもう一度お話しします。

医療機関からお願い

骨折急性期には保存治療が有効ですが、発症から時間が経ってしまうと保存治療では難しくなります。BKPは簡便で有効な治療手段ですが、もちろん万能ではありません。セメントを注入する余地がないほどつぶれてしまったり、背骨の後弯変形が進行してしまうと、いかにBKPといえども完全に症状を取ることが難しくなります。さらに進行して遅発性神経麻痺を来してしまうと、もとの生活に戻ることとはかなり難しくなります。

早期に治療を開始するほど良い結果が得られます。骨折かなと思ったら我慢をせず、早めに医療機関を受診して下さい。

医師紹介

わたなべ たかひろ
渡邊 隆宏 医師

- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言



- ①糖尿病内分泌内科
- ②糖尿病
- ③読書、音楽鑑賞
- ④糖尿病は未だ完治しない病気です。強い薬に頼り過ぎず、生活習慣や体質改善を重視しながら一緒に取り組んでいきましょう



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>